

保健医療福祉ネットワーク部

1. スタッフ

部長（兼）教授 樂木 宏実

その他、教授 2 名、准教授 2 名、講師 1 名、助教 1 名、医師 2 名、看護師長 4 名、副看護師長 2 名、看護師 3 名、病棟薬剤室長 1 名、栄養管理室長 1 名、臨床心理士 4 名、医療ソーシャルワーカー 6 名、事務職員 2 名、事務補佐員 3 名

（兼任を含む。また、教授、准教授、助教は特任、寄附講座を含む。）

2. 活動内容

地域医療機関との連携強化及び患者サービスの充実を目指し、平成 8 年度に地域医療推進室が設置され、平成 13 年度に院内措置による改組を経て当部が設置された。当部は、紹介患者診療予約受入れや逆紹介及び医療福祉関係の相談を受け付けるコンサルテーション部門、褥瘡の予防と治療を行う褥瘡対策チーム、及び心理相談を行う心のケアチームの 3 部門からなる。

3. 活動体制

(1) コンサルテーション部門

地域の依頼医師から紹介患者情報及び希望する診療科について当部に連絡が入ると、即時にコンピュータ端末から希望診療科の診察日時を予約、患者の診察用 ID 番号を取得し、依頼医師に返答する。これにより、患者の来院当日初診受付でのカルテ作成時間が短縮され、その日のうちに専門医の診察を受けることができる。一方、退院が近づいた患者に対して在宅療養や転院が必要な場合に、患者家族の希望に沿いながら良質な医療と看護を継続するため、病院資源や社会資源を効果的に活用し、最も適切な施設の紹介や、在宅医や訪問看護・訪問介護などの調整を行う。できるだけ良好な QOL が維持できるように、病棟と連携を取りながら看護師、ソーシャルワーカーが退院時の支援を積極的に行っている。医療福祉に関する相談には、随時ソーシャルワーカーが対応し、専門的な医事相談には医事課のスタッフが対応している。平成 26 年度より地域の各関係機関との連携強化を更に推進するため、地域連携業務を重点的に行う部署を立ち上げた。

(2) 褥瘡対策チーム

現在、チームメンバー（皮膚科医 2 名、薬剤師 1 名、管理栄養士 2 名、看護師 1 名）で週 1 回（木曜日）回診を行い、褥瘡治療とともにその予防にも力をいれている。

(3) 心のケアチーム

平成 17 年 10 月より、臨床心理士を中心に、医師、看護師、ソーシャルワーカー、移植コーディネーター、人間科学部教員、保健学科教員等の多職種チームで、患者や家族及び医療従事者等の心の問題に対するケアを行っている。平成 25 年度から、NICU に専任の臨床心理士が 1 名配置された。

4. 活動実績

(1) コンサルテーション部門（表 1、表 2）

他医療機関からの紹介患者受付数は平成 13 年度に当部が発足して以来年々増加し、平成 29 年度は 17,536 件となった（表 1）。他施設から本院への患者紹介の 68.8%が当部を通じて行われており、その割合も年々増加している（平成 28 年度は 66%）。平成 25 年度から予約 FAX の受付終了時間を、従来の 16 時から 18 時に延長するなど、近隣医師会からの要望にも対応している。

一方、病状によりリハビリや長期療養が必要とされる患者には、退院時に転院先の調整や、在宅療養を希望する患者には在宅医・訪問看護ステーションなどを紹介する。このような逆紹介作業も当部の重要な業務の一つであり、平成 29 年度の退院支援件数は 1,709 件であった。専任医師・看護師・ソーシャルワーカーが協働で支援を行っており、関わりやすさ・量ともにますます必要性が高まっている。平成 29 年度も、平成 28 年度同様ソーシャルワーカーの勤務者数に不足が生じたため、一時的に業務量を制限していた。平成 29 年度の医療福祉相談は 1,150 件、地域連携業務は 2,859 件であり、今後も増加が予想される。

(2) 褥瘡対策チーム（表 2）

平成 29 年度、褥瘡の院内発生件数は 120 件であり、他院からの持込み件数は 80 件であった。褥瘡ケア依頼件数は 62 件であり、延べ介入回数は 107 回である。教育活動として、スキンケアリンクナース会を実施している。

(3) 心のケアチーム（表 2）

平成 29 年度の新規依頼件数は、437 件であった。対象は、移植医療、がん、遺伝子医療、NICU、神経難病などの患者や家族であり、入院や外来の治療が円滑に進むよう、病棟、外来、関係部署、他チームとの連携を綿密に図りながら身体治療に伴う心理社会的問題解決のための援助を行っている。また、遺伝子診療部に

おけるカウンセリングにも同席し、遺伝病の問題に対する心理的援助も行っている。

5. その他

当部では、様々な学外活動や研究も行っている。学外の様々な会議へ参加し、地域連携をよりスムーズに行えるようにしている。また、退院支援・地域連携・多職種連携の取り組みや、高度医療における心理的サポートの効果的方法などを学会などで外部に発信している。研究面では、患者・家族の意思決定に関わる要素についての考察や、高度医療を支える臨床心理士の介入方法について論文化し、学会誌を通して発信している。

病院経営に関しても、新たな診療報酬の取得や、DPC委員会と連携し病院の収益増に努めている。

表1 年度別予約申し込み数・利用医療機関数

年度	予約申し込み数	利用医療機関数
平成23年度	13,332	2,447
平成24年度	14,247	2,548
平成25年度	15,305	2,695
平成26年度	16,143	2,708
平成27年度	16,487	2,690
平成28年度	16,824	2,765
平成29年度	17,536	2,841

表2 業績の内訳

内訳	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度
コンサルテーション部門			
患者紹介受付件数	16,487	16,824	17,536
セカンドオピニオン件数	476	429	412
転院・在宅療養支援件数	2,186	1,725	1,709
医療福祉相談件数	2,245	1,753	1,150
褥瘡対策チーム			
褥瘡ケア依頼件数 (介入回数)	60 (133)	52 (90)	62 (107)
心のケアチーム			
依頼件数	279	439	437